

免疫チエックポイント阻害薬の副作用

質問 60歳の女性で肺がんと診断され治療中です。現在、免疫チエックポイント阻害薬の治療を受けています。副作用で副腎皮質ホルモン低下症や糖尿病になることがあると言われました。どんな症状でどんな治療が必要なのでしょう？



白神 敦久

徳島県立中央病院
糖尿病・代謝内科
医療局次長

回答

がん治療で使われる免疫チエックポイント阻害薬は、体の免疫を活性化し、がん細胞を攻撃しやすくなる薬です。一方、免疫が強くなりすぎて、正常な臓器にも障害が起きることがあります。

主な副作用の一つが内分泌障害です。内分泌とは、ホルモンを作り体のバランスを整える仕組みで、問題があると体調に多様な変化が表れます。代表的な病気は、甲状腺機能障害や下垂体機能低下症、1型糖尿病です。最も多いのは甲状腺機能障害です。甲状腺が壊され甲状腺ホルモンが増えすぎると、動悸や汗が止まらなかつたり、イライラしたりします。減りすぎると強い倦怠感や寒

甲状腺・下垂体機能に障害



がり、体重増加、気分の落ち込みなどが起こります。治療は内服薬を使用します。

次に多いのが下垂体機能低下症です。下垂体はホルモンの司令塔と呼ばれ、全身のホルモン分泌を調整します。副作用の

がん何でもクイズ
がんの発生リスクを高めるとされている生活習慣はどれですか。
①喫煙②適度な運動③コーヒーの飲用
行こうよ！がん検診



血液検査で投薬を継続

の低下などが生じ、日常生活が難しくなります。治療は不足のホルモンを補う薬を使います。1型糖尿病は膵臓が血糖値を下げるインスリンを作れなくなる状態で、急に喉の渇きや体重減少が起こり、血糖値が大きくなる場合があります。治療はインスリン注射を用います。いずれの病気も、多くは血液検査で早期に発見でき、適切な治療を行えば投薬を続けられることがほとんどです。これらの障害が現れた人の方が、免疫チエックポイント阻害薬が効いていると報告されています。少しでも違和感を感じたら医師へ相談することが重要です。免疫チエックポイント阻害薬は、がん治療の可能性を広げた薬です。効果を最大限に生かすため、副作用を正しく理解し、安心して治療に向き合っていただければと思います。